



窯元の皆さんも大忙し



砥部焼まつり会場のアーチ



梅野武之助さんの顕彰碑



所狭しと並べられた砥部焼

「第33

今年も恒例の砥部焼まつりが四月十六、七日の二日間開催されました。昭和五十九年、梅山窯の梅野武之助さんと当時の愛媛新聞社社長の松下功さんが砥部焼発展のためにと発案されたものです。

当時も砥部焼の窯元は家族経営の小窯が多く、もし赤字になったら……の心配から尻込みをする人が多かったようです。その時「もし赤字が出たら私がみる」梅野さんの一言で砥部焼まつりが実現したそうです。

以後三十三年間、砥部町では最大のイベントとなり、県内でも有数の「春の祭り」として定着しました。

実は私も第一回の砥部焼まつりに携わらせて頂きました。

梅野さんから商工会に砥部焼だけではなく町の特産品も販売してはどうかと話がありました。が何しろ急なうえに、初めてのことで中々まとまりません。

紆余曲折の後、私達「とべ十店会」(大南商店街で毎月協同売出しをしているグループ)に打診があり検討の結果売店を引受けることになりました。

祭り当日、砥部焼も特産品も売れるは売れる、またたく間に商品が無くなり補充が大変でした。最後は在庫が無くなる程の大盛況でした。

それから毎年のように「砥部焼の蔵ざらえ」という程、多くの皆様にお越し頂いております。

梅野さんの大英断が砥部焼繁栄の源を作ったのです。梅野武之助さんの顕彰碑は砥部焼の先人を祀る陶祖ヶ丘に建立されています。



中村剛志

平成28年5月号